



北海道医療大学は来年2024年に 創立50周年を迎えます。

50周年記念事業企画委員長・副学長 和田 啓爾



このたび、私は「50周年記念事業企画委員会」委員長を仰せつかったことから、本学の50周年記念事業にかかわる構想と予定などをお知らせいたします。

現北海道医療大学の前身である東日本学園大学が音別町(現・釧路市)に誕生したのが1974年4月。翌年薬学部専門部を当別町に設置、以降、歯学部、看護福祉学部、心理学部、リハビリテーション科学部、医療技術学部を順次設置、加えて各大学院及び附属施設の設置、歯科衛生士専門学校、北海道医療大学病院、各種センターなどを設置し、今では私立医療系総合大学として、国内でも有数の規模に発展しました。この間、北海道内はもちろん全国各地に、卒業生が医療人として、あるいは医療を基盤とした仕事に従事し、地域貢献に寄与してきました。すでに23,605名(2023年9月卒業生を含む)の方々が卒業されています。

医療・科学技術の進歩に伴って変化し対応してきた本学の50年を振り返り、本学から輩出された医療人による社会的貢献、寄与を称えつつ、これからの50年に向けた本学の飛躍的展望の機会ととらえ、50周年記念事業としての機運を高めてまいりたいと存じます。

記念事業の方針としては、在学生や保護者の皆様ばかりでなく、同窓生、現職員並びに退職された本学教職員の多くの方々にご協力をいただき、記憶に残る事業にできればと思っています。

基本的な考え方として、Web記念誌を制作するほか、50周年にふさわしい記念講演会(予定)を開催し、本学のこれま

での歩みと、今後の本学の担う役割を皆さんとともに考えていく機会ととらえるというのが本事業の趣旨です。

この方針に基づき、以下に準備中の事業概要をご紹介します。なお、企画委員会は、全学部から1~3名、予防医療科学センター並びに先端研究推進センター各1名、事務局長、事務局5名、事務所管(総務企画課)で構成されています。

① 50周年記念誌

今回は、記念誌をWebで掲載し、冊子体は作成しない方針です。記念誌には、皆様から多くの寄稿を期待しております。2部構成となっており、理事長並びに学長のご挨拶、関係各位のご挨拶から、大学沿革、組織、各組織の現況、大学関連各種データベース等を記載する章と、在学生、同窓生、教職員等からの寄稿をもとにした全関係者の交流の場としての章の2部構成です。

② 記念講演会

本学の50周年にふさわしいテーマで企画を予定しております。できれば、この講演会を通じて、本学のこれまでの歴史を踏まえ、本学の将来像を考えることができる意義のあるものになればと期待しております。

50周年記念事業の企画は、本学ホームページの特設サイトでも随時ご案内しておりますので、ぜひ、本学ホームページにこれまで以上にアクセスしていただき、皆さんで記念事業を盛り立てていただけることを期待しております。ご協力のほど、よろしくお願いたします。

CONTENTS

北海道医療大学は来年2024年に 創立50周年を迎えます。	1
教員役職者・新任教員・ 昇任教員等紹介	2
2023年度入試結果報告	3
国家試験結果報告	4
就職結果報告	5
創立50周年記念特別企画 第1弾 数字で見る医療大	6
イベント開催報告	8
人々の暮らしを理解する実習 看護福祉学部 看護学科1年次後期	10
卒業生訪問[臨床心理学科]	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

歯学部	歯学部教務部長	伊藤 修一	看護福祉学部	看護福祉学部学生部長	濱田 淳一	心理科学部	心理科学部学生部長	森 伸幸
	歯学部教務部副部長	永野 恵司		看護福祉学部教務部副部長	守田 玲菜		心理科学部学生部副部長	今井 常晶
	歯学部学生部副部長	細矢 明宏		看護福祉学部学生部副部長	桑原 ゆみ	リハビリテーション科学部	リハビリテーション科学部学生部副部長	才川 悦子
看護福祉学部	看護福祉学部看護学部長	山田 律子	心理科学部	心理科学部教務部副部長	百々 尚美	大学病院	大学病院副院長	舞田 健夫

新規特任教員

北海道医療大学	教授	堀田 清	歯学部	教授	遠藤 一彦	看護福祉学部	教授	西 基	予防医療科学センター	教授	川上 智史
---------	----	------	-----	----	-------	--------	----	-----	------------	----	-------

新任教員

	薬学部 講師 (実務薬学(病院薬学)) 高村 茂生 (たかむら しげお) 本学(東日本学園大学)薬学部薬学卒業。本学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了。北海道大学病院薬劑部、本学薬学部実務薬学講座講師、独立行政法人地域医療機能推進機構北海道病院薬劑部長などを経て本学就任。薬学修士。	薬学部	助教(分子生命科学(生化学))	進藤 つぐみ
	心理科学部 教授 (臨床心理学) 柳生 一自 (やぎゅう かずゆり) 北海道大学医学部卒業。同大学院医学研究科博士課程修了。米国マチューセツ総合病院、ハーバード大学客員助教、北海道大学医学研究科児童思春期精神医学分野特任助教、北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門特任助教などを経て本学就任。医学博士。	薬学部	助手(生命物理科学(薬品物理化学))	長瀬 雅輝
	予防医療科学センター 准教授 (医学部門) 林 麻子 (はやし あさこ) 旭川医科大学医学部医学科卒業。北海道大学大学院医学研究科小児科学専攻修士課程修了。工芸総合病院、北海道大学病院医員、同客員臨床講師、北海道大学客員研究員、本学病院、本学客員准教授などを経て本学就任。医学博士。	歯学部	助教(衛生薬学(衛生化学))	山城 寿樹
	予防医療科学センター 講師 (医学部門) 平島 淑子 (ひらしま としこ) 自治医科大学医学部卒業。京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程修了。滋賀県立小児保健医療センターリハビリテーション科医長、茨城県立あすなろ病児科医長、水戸赤十字病院リハビリテーション科医長などを経て本学就任。医学博士。	歯学部	助教(口腔機能修復・再建学系(クラウンブリッジ・インプラント補綴学))	山中 大寛
	予防医療科学センター 講師 (医学部門) 安藤 佐土美 (あんどう さとみ) 北海道大学医学部医学科卒業。同大学院医学研究科皮膚科専攻修士課程修了。北海道大学病院医員、札幌鉄道病院、KKR札幌斗南病院、JCHO札幌北院(旧札幌社会保険総合病院)医長などを経て本学就任。医学博士。	歯学部	助教(口腔機能・病態学系(高齢者・有病者歯科学))	煙山 修平
		歯学部	助教(口腔生物学系(薬理学))	郷 賢治
		歯学部	助教(口腔機能・病態学系(歯科麻酔科学))	藤田 尚正
		歯学部	助教(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))	江上 佳那
		歯学部	助教(口腔構造・機能発育学系(組織学))	関 有里
		歯学部	助教(口腔機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	岡田 悠之介
		歯学部	助教(口腔生物学系(薬理学))	仙業 慎吾
		歯学部	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	広瀬 爽
		歯学部	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(う蝕制御治療学))	櫻井 雅彦
		歯学部	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学))	櫻井 日向子
		歯学部	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(クラウンブリッジ・インプラント補綴学))	石川 未来
		歯学部	任期制助手(口腔機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	内海 実奈
		歯学部	任期制助手(口腔機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	齋藤 亮
		歯学部	任期制助手(口腔機能・病態学系(歯科麻酔科学))	柳澤 魁星
		歯学部	任期制助手(口腔機能・病態学系(歯科麻酔科学))	水野 かほ
		歯学部	任期制助手(口腔機能・病態学系(高齢者・有病者歯科学))	今里 僚介
		看護福祉学部	助教(看護学基礎・統合看護学)	古川 えり
		看護福祉学部	助教(看護学系生進発達看護学)	伊藤 道子
		心理科学部	助教(臨床心理学)	金山 裕望
		リハビリテーション科学部	助教(作業療法学科)	依田 泰知
		リハビリテーション科学部	助教(言語聴覚療法学科)	若松 千裕
		リハビリテーション科学部	助手(言語聴覚療法学科)	横山 有紀
		全学教育推進センター	助教(リハビリテーション科学部(情報科学・統計学))	米田 龍大

昇任教員

	薬学部 教授 (薬学教育推進(薬事法制)) 吉田 栄一 (よしだ えいち) 本学(東日本学園大学)薬学部衛生薬学卒業。本学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了。北海道大学大学院薬学研究科博士課程修了。株式会社フーママジェイト代表取締役、本学薬学部講師、同准教授などを経て教授昇任。薬学博士。		看護福祉学部 講師 (看護学系生進発達看護学) 中安 隆志 (なかやす たかし) 川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学卒業。本学大学院看護福祉学研究科看護学専攻修士課程修了。専任看護専門学校非常勤講師、小樽医師会看護高等専修学校非常勤講師、本学看護福祉学部助教などを経て講師昇任。看護学修士。		医療技術学部 教授 (臨床検査学科) 丸川 浩司 (まるかわ かつじ) 札幌医科大学専門学校卒業。大学評価・学位授与機構(保健衛生学)卒業。北海道大学大学院医学研究科・医科学専攻分子診断病理学分野修士課程修了。同博士課程修了。本学医療技術学部講師などを経て教授昇任。医学博士。
	歯学部 教授 (口腔機能修復・再建学系(生体材料工学)) 根津 尚史 (ねづ たかし) 名古屋大学理学部化学科卒業。同大学院理学研究科化学専攻修士課程前期課程修了。同博士課程後期課程単位取得満期退学。九州大学大学院歯学専攻助手、若手医科大学歯学部講師、本学歯学部准教授などを経て教授昇任。理学博士。		看護福祉学部 講師 (看護学系生進発達看護学) 若濱 奈々子 (わかばし ななこ) 本学看護福祉学部看護学卒業。同大学院看護福祉学研究科看護学専攻修士課程修了。本学地域包括ケアセンター訪問看護ステーション、共立女子大学看護学部看護学助教、本学看護福祉学部助教などを経て講師昇任。看護学修士。		医療技術学部 講師 (臨床検査学科) 小野 誠司 (おの せいじ) 北海道大学医療技術短期大学部衛生技術学卒業。北海道脳神経外科記念病院診療技術部臨床検査科、札幌医科大学福祉歯科専門学校非常勤講師、本学医療技術学部助教などを経て講師昇任。
	看護福祉学部 教授 (看護学系生進発達看護学) 木浪 智佳子 (きなみ ちかこ) 本学看護福祉学部看護学卒業。同大学院看護福祉学研究科看護学専攻修士課程修了。同博士課程後期課程修了。青森県立保健大学健康福祉学部看護学助手、本学看護福祉学部看護学助手、同助教、同講師、同准教授などを経て教授昇任。看護学博士。		看護福祉学部 講師 (福祉マネジメント学科福祉福祉学) 高橋 由紀 (たかはし ゆき) 札幌医科大学福祉専門学校介護福祉士科卒業。本学看護福祉学部医療福祉学専攻臨床心理学専攻修士課程修了。東北福祉大学通信制大学院総合福祉学研究科福祉心理学修士課程修了。本学看護福祉学部助教などを経て講師昇任。福祉心理学修士。		全学教育推進センター 准教授 併任先:看護福祉学部(英語) Shaun Hoggard (ショーン ホガード) Lancaster University政治学部卒業。同大学院言語学研究科英語教育方法学専攻修士課程修了。同言語学研究科博士課程修了。慶女子大学非常勤講師、北海道大学非常勤講師、本学全学教育推進センター看護福祉学部講師などを経て准教授昇任。言語学博士。
	看護福祉学部 教授 (看護学系生進発達看護学) 常田 美和 (つねた みわ) 札幌医科大学保健医療学部看護学卒業。同大学院保健医療学研究科修士課程看護学専攻女性健康看護学分野修了。北海道大学大学院医学研究科医学専攻修士課程社会医学コース修了。本学看護福祉学部准教授などを経て教授昇任。医学博士。		心理科学部 講師 (臨床心理学) 福田 実奈 (ふくだ みな) 同志社大学心理学部心理学卒業。同大学院心理学研究科心理学専攻修士課程修了。同博士課程後期課程修了。札幌医科大学福祉歯科専門学校非常勤講師、本学心理学部助教などを経て講師昇任。心理学博士。		全学教育推進センター 講師 併任先:リハビリテーション科学部(文学および文章指導) 山田 桃子 (やまだ ももこ) 慶女子大学文学部日本語・日本文学卒業。北海道大学大学院文学研究科言語学専攻修士課程修了。同博士課程単位取得退学。慶女子大学非常勤講師、本学全学教育推進センターリハビリテーション科学部助教などを経て講師昇任。文学博士。
	看護福祉学部 教授 (福祉マネジメント学科精神保健福祉学) 橋本 菊次郎 (はしもと きくじろう) 北星学園大学文学部社会福祉学卒業。同大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程修了。財団法人北海道精神保健推進協会札幌市こふし館、北陽大学講師、同准教授、本学看護福祉学部准教授などを経て教授昇任。社会福祉学修士。		リハビリテーション科学部 准教授 (理学療法学科) 大須田 祐亮 (おおすだ ゆうすけ) 札幌医科大学保健医療学部理学療法学卒業。同大学院保健医療学研究科修士課程前期修了。同博士課程後期修了。札幌医科大学福祉歯科専門学校非常勤講師、本学リハビリテーション科学部講師などを経て准教授昇任。理学療法学博士。		
	看護福祉学部 准教授 (看護学系基礎・統合看護学) 福井 純子 (ふくい すみこ) 慶徳義塾大学医学部付属厚生女子学院卒業。日本女子大学人間社会学部教育学科卒業。同大学院人間社会研究科教育専攻修士課程前期修了。東京女子医科大学大学院看護学研究科博士課程後期修了。本学看護福祉学部准教授などを経て准教授昇任。看護学博士。		リハビリテーション科学部 講師 (理学療法学科) 若部 達也 (わくば たつや) 新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学卒業。同大学院医療福祉学研究科保健学専攻修士課程修了。青森県立保健大学大学院健康科学研究科保健学博士後期課程修了。本学リハビリテーション科学部助教などを経て講師昇任。健康科学博士。		

兼務教員

予防医療科学センター 教授兼参与(医療管理部) 岡村 敏弘

2023年度 入試 結果報告

本年度の志願者数は
4,082名

本年度入試の志願者総数は、4,082名となりました。志願者の最も多かった学科は看護学科888名で、次に薬学部602名という結果でした。

編入学試験の
志願者総数は21名

本学全体では21名が編入学を志願しました。うち7名が入学し、実質競争倍率は1.9倍でした。

特待奨学生制度を拡充

学業成績および人物の優れた入学者に対する経済支援のため、2023年度から全学部・学科を対象に特待奨学生制度を大幅に拡充しました。

2023年度入試結果

		薬学部	歯学部	看護福祉学部		心理科学部	リハビリテーション科学部			医療技術学部	歯学部附属歯科衛生士専門学校
		薬学科	歯学科	看護学科	福祉 マネジメント 学科	臨床心理 学科	理学療法 学科	作業療法 学科	言語聴覚 療法学科	臨床検査 学科	歯科衛生科
総合型選抜 ※歯科衛生科 …AO入試	志願者数	17名	16名	29名	4名	11名	32名	12名	11名	31名	14名
	受験者数	17名	16名	29名	4名	11名	32名	12名	11名	31名	14名
	合格者数	15名	8名	14名	4名	11名	21名	10名	11名	14名	14名
	入学者数	15名	7名	14名	3名	11名	21名	10名	11名	14名	13名
	実質倍率	1.1倍	2.0倍	2.1倍	1.0倍	1.0倍	1.5倍	1.2倍	1.0倍	2.2倍	1.0倍
学校推薦型選抜 (一般) ※歯科衛生科 …推薦入試(一般)	志願者数	3名	1名	30名	0名	1名	19名	8名	1名	23名	0名
	受験者数	3名	1名	30名	0名	1名	19名	8名	1名	23名	0名
	合格者数	3名	1名	27名	0名	1名	18名	8名	1名	18名	0名
	入学者数	3名	0名	27名	—	1名	17名	8名	1名	18名	—
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.1倍	—	1.0倍	1.1倍	1.0倍	1.0倍	1.3倍	—
学校推薦型選抜 (指定校特別) ※歯科衛生科 …推薦入試 (指定校特別)	志願者数	38名	7名	25名	23名	34名	22名	9名	21名	9名	5名
	受験者数	38名	7名	25名	23名	34名	22名	9名	21名	9名	5名
	合格者数	38名	7名	25名	23名	34名	22名	9名	21名	9名	5名
	入学者数	36名	6名	24名	20名	33名	21名	9名	20名	9名	5名
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍
一般選抜(前期) ※薬学部・歯学部 のみ、2日目には 外国人留学生 特別選抜を含む ※歯科衛生科 …一般入試	1日目	151名	84名	244名	52名	71名	103名	104名	45名	88名	0名
	2日目	97名	82名	185名	50名	67名	73名	87名	45名	79名	—
	3日目	74名	48名	160名	42名	65名	72名	89名	50名	70名	—
	1日目	146名	83名	240名	50名	67名	99名	100名	42名	88名	0名
	2日目	92名	77名	176名	46名	63名	68名	82名	42名	78名	—
	3日目	63名	37名	154名	38名	59名	65名	81名	43名	66名	—
	合格者数	181名	112名	149名	63名	93名	71名	97名	55名	60名	0名
	入学者数	70名	35名	42名	18名	12名	18名	14名	8名	20名	—
	実質倍率	1.7倍	1.8倍	3.8倍	2.1倍	2.0倍	3.3倍	2.7倍	2.3倍	3.9倍	—
一般選抜(後期)	志願者数	28名	36名	23名	11名	16名	17名	15名	14名	20名	—
	受験者数	23名	30名	21名	9名	13名	15名	13名	12名	18名	—
	合格者数	19名	25名	5名	8名	12名	6名	4名	9名	6名	—
	入学者数	5名	4名	3名	3名	2名	3名	2名	1名	4名	—
	実質倍率	1.2倍	1.2倍	4.2倍	1.1倍	1.1倍	2.5倍	3.3倍	1.3倍	3.0倍	—
共通テスト 利用選抜(前期A)	志願者数	128名	69名	134名	33名	61名	80名	68名	40名	86名	—
	受験者数	128名	69名	134名	33名	61名	80名	68名	40名	86名	—
	合格者数	113名	59名	42名	32名	59名	28名	31名	36名	17名	—
	入学者数	16名	11名	4名	1名	10名	8名	4名	5名	4名	—
	実質倍率	1.1倍	1.2倍	3.2倍	1.0倍	1.0倍	2.9倍	2.2倍	1.1倍	5.1倍	—
共通テスト 利用選抜(前期B)	志願者数	50名	25名	44名	20名	43名	27名	34名	19名	29名	—
	受験者数	50名	25名	44名	20名	43名	27名	34名	19名	29名	—
	合格者数	47名	24名	22名	19名	43名	20名	26名	17名	7名	—
	入学者数	6名	2名	3名	2名	5名	6名	3名	1名	2名	—
	実質倍率	1.1倍	1.0倍	2.0倍	1.1倍	1.0倍	1.4倍	1.3倍	1.1倍	4.1倍	—
共通テスト 利用選抜(後期)	志願者数	16名	15名	14名	5名	15名	3名	6名	7名	15名	—
	受験者数	16名	15名	14名	5名	15名	3名	6名	7名	15名	—
	合格者数	15名	15名	3名	4名	13名	1名	2名	4名	2名	—
	入学者数	4名	2名	1名	1名	0名	1名	0名	0名	1名	—
	実質倍率	1.1倍	1.0倍	4.7倍	1.3倍	1.2倍	3.0倍	3.0倍	1.8倍	7.5倍	—
社会人特別選抜	志願者数	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	—
	受験者数	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	—
	合格者数	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	—
	入学者数	—	0名	—	—	0名	—	—	—	—	—
	実質倍率	—	—	—	—	1.0倍	—	—	—	—	—
TOTAL	志願者数	602名	384名	888名	240名	385名	448名	432名	253名	450名	19名
	受験者数	576名	361名	867名	228名	368名	430名	413名	238名	443名	19名
	合格者数	431名	251名	287名	153名	267名	187名	187名	154名	133名	19名
	入学者数	155名	67名	118名	48名	74名	95名	50名	47名	72名	18名
	実質倍率	1.3倍	1.4倍	3.0倍	1.5倍	1.4倍	2.3倍	2.2倍	1.5倍	3.3倍	1.0倍

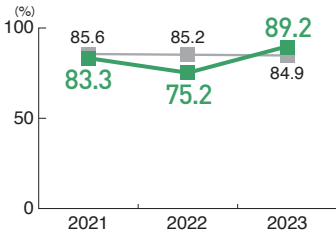
薬学部

第108回 薬剤師国家試験

全卒業生6,472名の97.5%が
薬剤師免許を取得。

2023年2月、第108回薬剤師国家試験が行われ、合格率は89.2%と全国平均を上回りました。なお、本学薬学部卒業生総数6,472名の97.5%にあたる6,310名が薬剤師免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



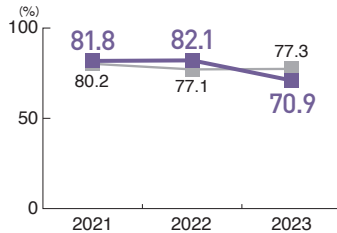
歯学部

第116回 歯科医師国家試験

全卒業生3,481名の98.0%が
歯科医師免許を取得。

2023年1月、第116回歯科医師国家試験が行われ、合格率は70.9%となりました。なお、本学歯学部卒業生総数3,481名の98.0%にあたる3,411名が歯科医師免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



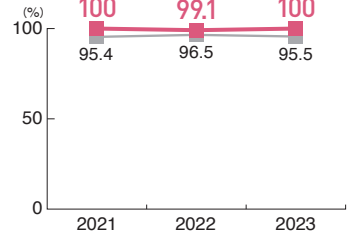
看護福祉学部 / 看護学科

第112回 看護師国家試験

全卒業生2,872名の99.2%が
看護師免許を取得。

2023年2月、第112回看護師国家試験が行われ、合格率は100%と全国平均を上回りました。なお、卒業生総数2,872名の99.2%にあたる2,849名が看護師免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



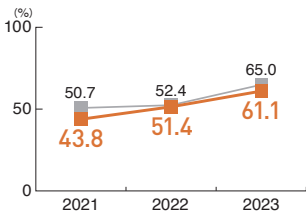
看護福祉学部 / 福祉マネジメント学科

全卒業生1,964名の62.4%が社会福祉士免許を取得。
介護福祉士の新卒合格率は100%

第35回社会福祉士国家試験の本学新卒合格率は61.1%、第25回精神保健福祉士国家試験は76.9%でした。第35回介護福祉士国家試験では、100%の新卒合格率を達成しました。

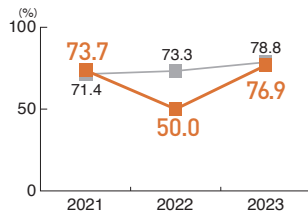
第35回 社会福祉士国家試験

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



第25回 精神保健福祉士国家試験

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



第35回 介護福祉士国家試験

■ 本学合格率(2022-2023年 新卒)

100%
[養成施設全国平均84.3%]

心理科学部 / 臨床心理学科

第6回 公認心理師国家試験

本学大学院修了生の94.3%が
公認心理師免許を取得。

2017年に公認心理師法が施行され、2018年9月に初めての国家試験が実施されました。本学は2018年度入学生から養成カリキュラムを開始。卒業後は心理学系大学院等を修了するか、臨床現場で一定期間以上の実務経験で受験資格が得られます。

※本学大学院は公認心理師の受験資格取得に対応しています。

■ 本学合格率(本学大学院新規修了生)

2022年 **81.8%** [全国平均48.3%]
2023年 **86.7%** [全国平均73.8%]

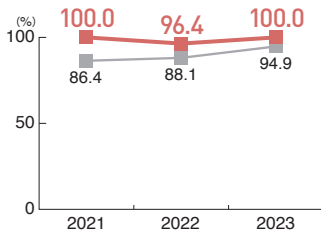
リハビリテーション科学部 / 理学療法学科

第58回 理学療法士国家試験

全卒業生554名の99.5%が
理学療法士免許を取得。

2023年2月、第58回理学療法士国家試験が行われ、合格率は100%と全国平均を上回りました。また、卒業生総数554名の99.5%にあたる551名が理学療法士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



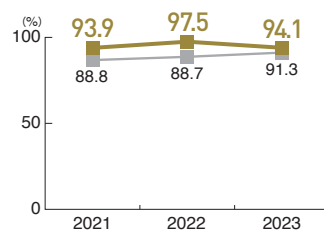
リハビリテーション科学部 / 作業療法学科

第58回 作業療法士国家試験

全卒業生264名の98.5%が
作業療法士免許を取得。

2023年2月、第58回作業療法士国家試験が行われ、合格率は94.1%と全国平均を上回りました。また、卒業生総数264名の98.5%にあたる260名が作業療法士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



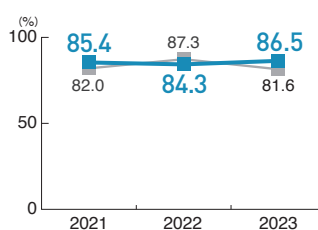
リハビリテーション科学部 / 言語聴覚療法学科

第25回 言語聴覚士国家試験

全卒業生1,031名の92.1%が
言語聴覚士免許を取得。

2023年2月、第25回言語聴覚士国家試験が行われ、合格率は86.5%と全国平均を上回りました。なお、本学科の全卒業生1,031名のうち、92.1%にあたる950名が言語聴覚士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



医療技術学部 / 臨床検査学科

第69回臨床検査技師国家試験

2023年に初めての卒業生を輩出。
全国平均を大きく上回る
合格率を達成。

2023年3月に初めての卒業生を送り出した本学部学科。コロナ禍の中でさまざまな困難にぶつかりながら学んだ1期生の先輩たちによる今後の活躍が期待されます。

■ 本学合格率(2023年 新卒)

96.4%
[全国平均89.5%]

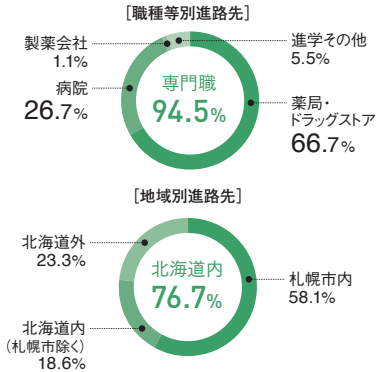
本学卒業生への評価の高さが、求人の質・量に直結。
より深い知識修得をめざし大学院へ進学する人も。

薬学部

3,000人を超える求人数。
卒業生は総合病院や調剤薬局などへ。

■2023年3月
卒業生の就職先

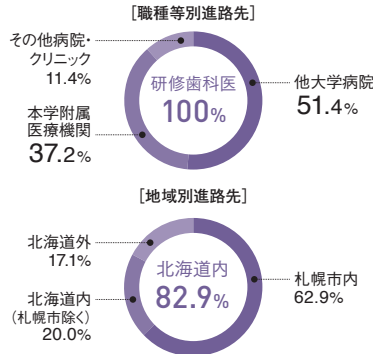
求人数	薬剤師…………… 3,572人 MR・研究・開発職 …… 180人
-----	--------------------------------------



歯学部

卒業後は、臨床能力の向上をめざし、
研修歯科医の道へ。

■2023年3月
卒業生の就職先

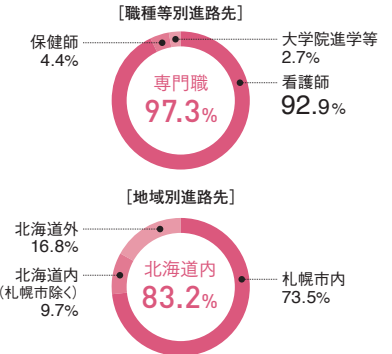


看護福祉学部／看護学科

札幌と首都圏を中心に、
全国の総合病院へ就職。

■2023年3月
卒業生の就職先

求人数	看護師等 …… 8,613人
-----	----------------

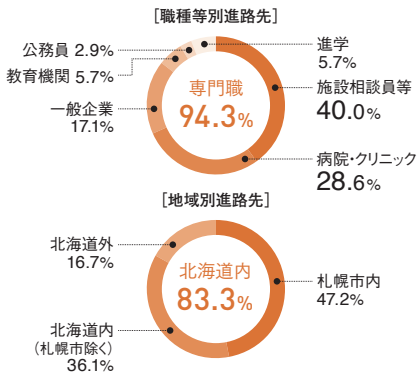


看護福祉学部／福祉マネジメント学科

施設や病院のほか、公務員、教員、一般企業と
さまざまな分野で活躍。

■2023年3月
卒業生の就職先

求人数	医療機関相談員…………… 284人 福祉施設相談員…………… 2,003人 介護職員等…………… 2,003人 公務員・一般企業他…………… 9,249人
-----	--

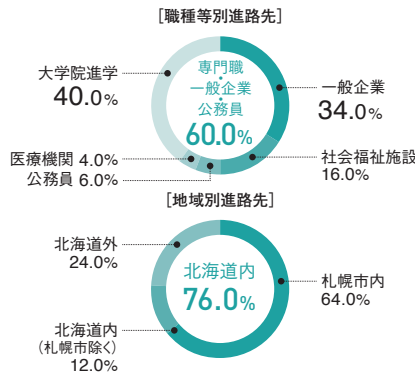


心理科学部／臨床心理学科

業界や業種を問わず、多彩な分野へ就職。
4割が公認心理師をめざし大学院へ進学。

■2023年3月
卒業生の就職先

求人数	心理職…………… 132人 一般企業・医療福祉分野事務等 …… 5,485人
-----	---

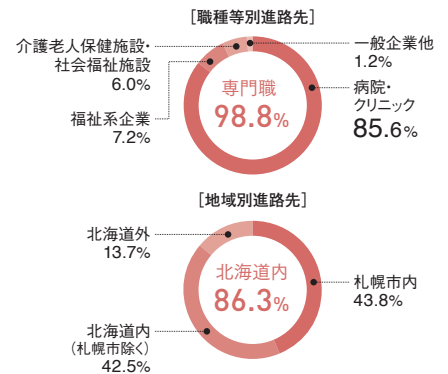


リハビリテーション科学部／理学療法学科

9割以上の卒業生が、
病院・クリニックへ就職。

■2023年3月
卒業生の就職先

求人数	理学療法士 …… 3,006人
-----	-----------------

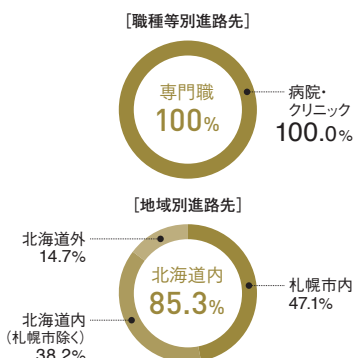


リハビリテーション科学部／作業療法学科

2,000人以上の求人が寄せられ、
病院・クリニックへ就職。

■2023年3月
卒業生の就職先

求人数	作業療法士 …… 2,632人
-----	-----------------

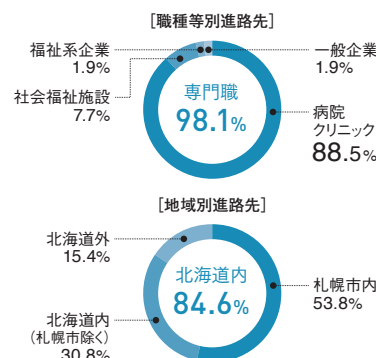


リハビリテーション科学部／言語聴覚療学科

8割以上が病院の言語聴覚士に。
全国各地で活躍しています。

■2023年3月
卒業生の就職先

求人数	言語聴覚士 …… 1,589人
-----	-----------------

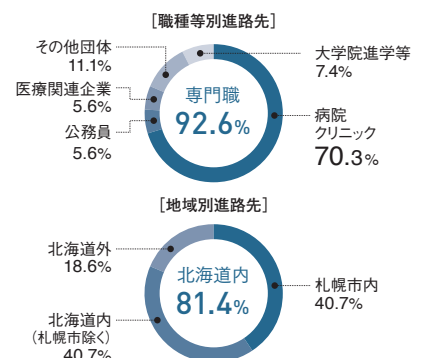


医療技術学部／臨床検査学科

北海道・東北を中心に
全国から求人が寄せられています。

■2023年3月
卒業生の就職先

求人数	臨床検査技師 …… 511人
-----	----------------



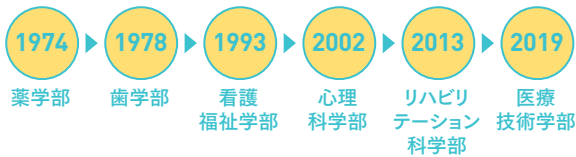
1974

北海道の医療のために、 発展してきた半世紀。



本学は1974年に創立されました。当時の北海道は私立の医療系総合大学がなく、医療過疎が深刻でした。中でも不足していたのが薬剤師。そんな背景から、太平洋を望む音別町(現・釧路市)に、東日本学園大学(本学の前身)薬学部が誕生しました。その後時代のニーズに応えるために新学部の開設など発展を続け、現在は6学部9学科と歯学部附属歯科衛生士専門学校を擁する医療系総合大学に。北海道の医療のために進化してきた歴史があります。

《現在の6学部と開設年》



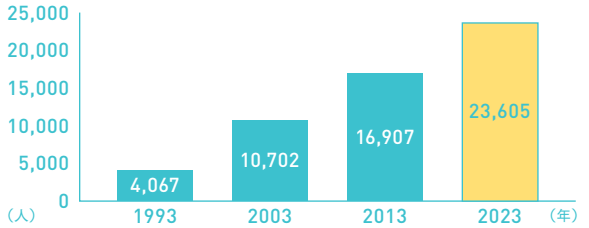
23,605

患者さんやチームメイトからの 高い評価が「医療大ブランド」。



これまでに輩出してきた卒業生の数は、23,605人。北海道内を中心に全国各地で活躍しており、強固な卒業生ネットワークがあります。各施設の代表・役員・管理職クラスや、薬局、歯科医院、福祉サービスの事業所などを開業した人も多数。卒業生の行動力やコミュニケーション力が、本学の高い評価につながっています。

《累計卒業生数の推移》



Health Sciences University of Hokkaido 50th Anniversary 創立50周年記念特別企画 第1弾

数字で見る 医療大



2024年10月10日、北海道医療大学は創立50周年を迎えます。そこで広報誌ADVANCEでは、今号から3号にわたって、創立50周年記念特別企画を掲載予定です。第1弾は「数字で見る医療大」。数字やデータを通して、本学の特色や規模感、ちょっとマニアックな情報までをお伝えします。

225,672

学生も専門職も、 地域の方々も利用。



当別キャンパスには総合図書館、札幌あいの里キャンパスには総合図書館分館があり、蔵書数は225,672冊。専門書から小説・マンガまで多彩な図書に加えて、10,847種の学術雑誌や電子ジャーナル、国家試験問題集なども取り揃えています。学生はもちろん、医療や福祉の専門職、地域の方々も利用している大規模な図書館です。

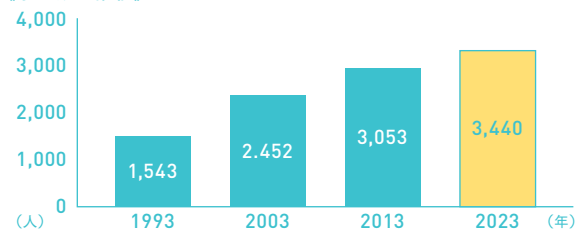
3,440

学部学科の枠を越えて、 チーム医療を学んでいます。



当別キャンパスと札幌あいの里キャンパスで学んでいる学生は、3,440人。チーム医療・多職種連携を学ぶ独自科目からクラブ・サークル活動まで、学部学科の枠を越えた交流が盛んです。卒業後の勤務先で、同じ医療大の卒業生に出会えることも多いはず。また、学生時代のつながりは、勤務先や職種が違ってても続くことでしょう。

《学生数の推移》



12

すべての学部学科で、 国家資格取得をめざせます。

6学部9学科と歯科衛生士専門学校でめざせる国家資格の数は、合計12。さらに、卒業後のキャリアが有利になる民間資格、付与資格、任用資格なども数多くあります。そのため、卒業後はさまざまな進路を選択可能。また、大学院に進学し、高度資格の取得もめざす道もあります。

《めざせる主な資格等》

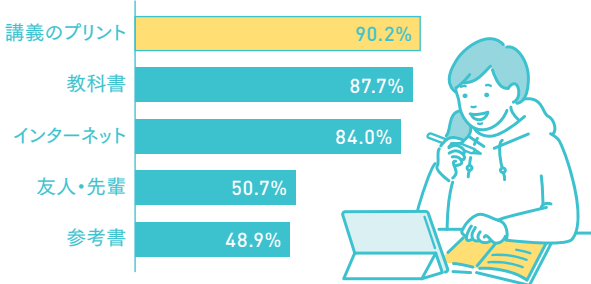
- 薬学部: 薬剤師(国家資格)
- 歯学部: 歯科医師(国家資格)
- 看護学部: 看護師(国家資格)
- 福祉マネジメント学科: 社会福祉士(国家資格)、精神保健福祉士(国家資格)、介護福祉士(国家資格)、スクールソーシャルワーカー、初級パラスポーツ指導員、高等学校教諭一種免許状(公民/福祉)、特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)、社会福祉主事、児童指導員、身体障害者福祉司
- 臨床心理学科: 公認心理師(国家資格、要大学院進学等)、産業カウンセラー、認定心理士、児童心理師
- 理学療法学科: 理学療法士(国家資格)
- 作業療法学科: 作業療法士(国家資格)、音楽療法士
- 言語聴覚療法学科: 言語聴覚士(国家資格)
- 臨床検査学科: 臨床検査技師(国家資格)、健康食品管理士、食品衛生管理者、食品衛生監視員
- 歯科衛生士専門学校: 歯科衛生士(国家資格)



90.2 先生の用意したプリントが、やっぱりいちばん。

勉強のときに活用している情報源として、90.2%の学生が、教員の用意した「講義のプリント」と回答しました。これは、毎年実施している「学生生活アンケート」の集計結果(令和4年度)によるものです。本学の教員は、一人ひとりの学生に対して、日頃から親身になって手厚いサポートを行っています。アンケートの結果は、学生が教員のことを信頼している証、といえるかもしれません。

《勉強の際の調べ物の情報源》複数回答可



43 勉強だけの学生生活は、もったいない。

活動中のクラブ・サークルの数は、体育局と文化局を合わせて43。学外での実習や国家試験に向けた勉強など、医療系の学生は忙しいイメージですが、本学では勉強と課外活動を両立している学生が数多くいます。



46.4

医療人になりたい、
という思いに応えたい。



奨学金制度を利用している学生は、46.4%と約半数。日本学生支援機構奨学金はもちろん、「特待奨学生」、「学校法人東日本学園一般奨学生」など本学独自の支援制度も数多くあります。

1,637



多彩な経験を積めるのは、
施設との信頼関係があるから。

学外で行われる臨床・臨地実習では、のべ1,637もの施設が学びの場となっています。札幌市内の病院や地方の中核病院、地域包括支援センターや訪問看護ステーション、社会福祉施設など多彩な現場で経験を積めるのは、医療系総合大学ならではの。医療人としての幅広い視点と高いコミュニケーションを身につけ、卒業後のキャリアについてイメージを広げてほしいと願っています。

《各学科の実習協力施設数》

●薬学科.....151	●理学療法学科.....412
●歯学科.....27	●作業療法学科.....296
●看護学科.....145	●言語聴覚療法学科.....213
●福祉マネジメント学科.....333	●臨床検査学科.....35
●臨床心理学科.....25	

大学院心理科学研究科の実習施設を含む

325,985

医療系総合大学だから、
圧倒的なスケール感。



当別キャンパスと札幌あいの里キャンパスを中心に、本学の校地面積は合計325,985㎡。これは、道内の医療系総合大学としては最大級の規模です。各学部棟には、高度な設備が導入された実習室や講義室を完備。さらに、大学病院、歯科クリニック、地域包括ケアセンターなどチーム医療を実践する附属施設から、広大なグラウンド、テニスコートまで、学生が充実したキャンパスライフを送れる環境を追求しています。

- 当別キャンパス..... 296,253㎡
- 札幌あいの里キャンパス..... 28,576㎡
- 茨戸教育研修センター..... 1,155㎡

350 私たちはみんな、医療大というチームの仲間。



1977年。当時は薬学部のみで、学びの舞台は音別と当別にありました。その夏、当別キャンパスで開催される第1回の大学祭に合わせて、翌春に卒業を控えた薬学部1期生17人が「音別・当別マラソン」を企画。音別から列車や車を使わずに歩き、大学祭最終日までに当別をめざすというものです。その距離なんと、350km。企画の狙いは、自分たちのチャレンジを新聞に

取り上げてもらい大学の宣伝になること、そして、音別と当別をつなぎ、離れていても同じ大学で学ぶ仲間だと伝えること。1期生たちは10日かけて350kmを歩き切り、大学祭の最終日、当別の仲間を迎えられました。狙いどおり、新聞記事になり多大な宣伝効果を発揮。「同じ大学の仲間」というチームワークは、これからも本学のアイデンティティとして受け継がれていくことでしょう。



EVENT REPORT

イベント開催報告

開催報告 /

REPORT
1

台北医学大学(台湾) 短期研修を行いました。

[看護福祉学部・歯科衛生士専門学校]

台北医学大学の学生が本学の短期研修に参加しました。台北医学大学は1960年に創立された11学部と6附属病院からなる医療系総合大学であり、大学ランキングで台湾トップクラスの私立大学です。看護福祉学部では、台北医学大学看護学部老年健康管理学科の高利綺さん、陳宥君さん、陳郁欣さん、黃千容さんの4名、歯科衛生士専門学校では同校口腔学部口腔衛生学科の陳法藁さん1名がそれぞれのプログラムに参加し、学内のみならず学外の様々な施設にて研修を行いました。両プログラムとも、新型コロナウイルスの流行が始まって以来、久々の実施となりましたが、在学生や卒業生等のサポートもあり、学生交流を含め充実したプログラムとなりました。

研修日程 看護福祉学部:7月3日～7月14日
歯科衛生士専門学校:7月18日～7月25日



開催報告 /

REPORT
2

本学YOSAKOIソーラン祭り部が 優秀賞を受賞しました。

[第32回YOSAKOIソーラン祭りU-40大会]

初夏を彩る北海道の大イベント「第32回YOSAKOIソーラン祭り」において、本学YOSAKOIソーラン祭り部(チーム名『北海道医療大学～桜雅～』)はU-40大会において、チーム再編後、初出場ながら優秀賞を受賞しました。

本学YOSAKOIソーラン祭り部は、部員が激減し、今回チーム名を改めての再結成となり、上位進出が困難な状態でした。そのような逆境の中でも、学生らしい躍動感のある演舞を披露し、その素晴らしい演舞に各演舞会場では、観客から大きな拍手と声援が送られました。その結果、U-40大会において優秀賞を受賞することができました。応援、ご協力いただきました皆様、誠に有難うございました。



開催報告 /

REPORT

3

令和5年度大学祭 「第43回九十九祭」が 開催されました。

九十九祭詳細については、
北海道医療大学大学祭実行委員会の
SNSをご覧ください。



43回目を迎える北海道医療大学大学祭「九十九祭」が6月17日から2日間にわたり開催されました。4年ぶりの一般公開となった第43回九十九祭は野外特設ステージにおける発表や、学術発表やお化け屋敷などの各種イベント、学生有志・キッチンカーの出店などがありました。2日目は午前中からビンゴ大会が開催されることもあって、開場前から待機列ができるほどの賑わいをみせ、錦鯉さん、トム・ブラウンさんのお笑いライブ時には、ステージ前に入りきれないほどのお客様が来場し大変なごわいをみせていました。



開催報告 /

REPORT

4

ホームカミングデーが 開催されました。



ホームカミングデーは、本学を卒業した同窓生が母校に集い親睦を深めることで、同窓生相互の発展と連携強化につなげ、また、思い出多いキャンパスで母校の現状や教育研究の諸活動などを紹介するとともに、恩師・教職員並びに学生と交流することにより、同窓生との連携をより一層に深めることを目的として北海道医療大学後援会との共催により企画したものです。

当日は卒業生とそのご家族、約50名の方に参加いただきました。オープニングセレモニーでは、学生キャンパス副学長(SCP)の学生達が進行を務め、浅香学長、三上後援会長(薬学部1期卒)からの挨拶の後、基調講演として浅香学長より本学の現況について、和田副学長より2024年に迎える創立50周年の記念事業についてそれぞれ講演を行いました。

また、昼食は学食体験として、実際の食堂のメニューを食べながらの懇親会を開催しました。学内見学ツアーでは図書館や歯学部が多職種連携実習室、中央講義棟10階ビューラウンジをご案内しました。

学部・学校別の企画では、それぞれ出身学部・学校別に分かれて現職教員との交流や学内見学ツアーでは回りきれなかった施設等を見学し、参加した卒業生は久しぶりに訪れた母校の雰囲気を楽しんでいた様子でした。



地域で暮らす人々から、お話を聞く。 視野を広げる、独自の实習です。

看護師の役割は、患者さんが望む生活ができるようにサポートすること。しかし、「患者さん」と捉えていては、その人の思いに寄り添うことはできません。もともとその人には、地域社会での暮らしがあるからです。本学看護学科では、「人々の暮らしを理解する実習」を実施。目的は科目名のとおりで、地域で暮らす人々へのインタビューなどを行います。同科目の実施において中心的な役割を果たした明野聖子講師に、詳しくお話を伺いました。

1年次から、体験の機会を。

本学科では、2022年度から新カリキュラムがスタートしました。多様な文化や価値観を尊重した看護が必要とされる中、深い思考力、広い視野、自由な発想でニーズに応える専門職を養成するためです。

「人々の暮らしを理解する実習」は、暮らしの場を問わず、あらゆる健康状態の人々への看護を考えるための基盤を培うために誕生しました。夏季実習5日間、冬季実習(2024年2月予定)5日間の計10日間にわたって実施。札幌市拓北・あいの里地区や当別町で暮らす人々に、暮らし方や価値観についてインタビューを行います。実習開始時から報告会まで、4人ほどのグループ単位で取り組みます。

また、1年次から体験の機会を設けることには大きな意義があります。早い段階からコミュニケーションを磨き、人々の暮らしを尊重する視点を持つことで、さまざまな暮らしをイメージし、その人に合った看護を考える学びの積み重ねが期待されます。

この度は、2023年8月28日から9月1日まで実施された夏季実習の報告をさせていただきます。

生活者の視点で、歩いてみる。

1日目と2日目は実習の導入。まずは、本学教員の講義です。暮らしは、家族、歴史、地域社会の文化や環境などさまざまな要素で構成されていること、そして、一人ひとりの価値観を尊重することが重要であることを伝えました。また、「自分自身の暮らしを振り返る」という事前課題をグループで共有。同じ学生同士でも、暮らし方は一人ひとり異なります。多様性を受け止める必要性を実感してもらえたと思います。



まちづくりセンターの職員による講義。

また、地域の保健師、まちづくりセンターや社会福祉協議会の方々などにも講義をご依頼しました。車での移動が中心のため運動不足の人が多いなど健康面の特徴から、地域の人々同士での支え合いの活動紹介まで、貴重なお話を伺いました。

講義だけではありません。インタビューの対象者が暮らすエリアを実際に観察する、地区踏査も実施。スーパーまでの道のりや、病院の場所などを確認しながら、自分たちの足で、かつ、その人の目線になってイメージを広げます。道端の花壇がきれい、歩道が歩きにくい、車がないと不便など、気づいたことはインタビューを行う上でも重要なヒントに。誰かの立場を想像しながら歩くことで、多くの発見があったようです。

さまざまな学びを経て、各グループでは質問内容をまとめていきます。対象者に関する情報は、お住まいの場所、年代、お名前のみ。全員が想像をふくらませ、シミュレーションをしていました。

何にも替えられない、実体験。

3日目はよいよ、インタビューです。場所は、地域の会館、地域福祉ターミナル、その人のご自宅など。学生が直接会いに行き、主体的にインタビューを進めます。マナーや言葉遣いなど気をつけたいことも、学生自ら考えて準備をしました。

インタビュー時間は60~90分程度。対象者はお話が好きな人ばかりで、学生たちの緊張はすぐに解けていきました。質問の内容は、健康状態や家族構成、地域社会とのつながりなど。今までの暮らしのこと、その地域の良い点や不便な点なども聞いていきますが、プランどおりに進むとは限りません。質問の順番を変えたり、追加で聞きたいことを聞いたり、会話の流れに沿って臨機応変な対応が必要です。大切なのは、相手のことを尊重し、教えていただくという姿勢。コミュニケーションのあり方を学ぶ有意義な機会になったはずです。

インタビューを終えて教室に戻ってきた学生たちは、生き生きとした表情、高揚した声で報告してくれました。自分とは異なる価値観に触れて「視野が広がった」と喜ぶ学生も、健康意識の高さに「私ももっと勉強しなくちゃ」と刺激を受けた学生もいました。また、地域で暮らす人々のていねいな接し方は、いいお手本になったようです。

看護福祉学部看護学科 講師

明野 聖子

本学看護福祉学部看護学科卒業。同大学院看護福祉学研究所看護学専攻修士課程修了。厚真町役場総務民生部保健福祉課健康支援係保健師などを経て現職。専門分野は公衆衛生看護学。主な研究テーマは、乳幼児期の母親の育児支援、妊婦期の父親の支援など。



地域で暮らす人々に学生がインタビュー。

教科書よりも、その人の言葉。

4日目は、実習報告会に向けて準備を行いました。講義や地区踏査など実習初期に学んだことからインタビューまで、自分たちが見たことや聞いたこと、思ったことを自由な形式でまとめます。「聞いたお話があり過ぎて困っています」などと冗談をいしながら、楽しく取り組んでいました。

最終日は実習報告会。インタビューの対象者が各グループで異なるため、発表内容もバラエティ豊かでした。とくに良かった点は、義務的な報告ではなく、自分たちが伝えたいことを率直に発表してくれたこと。たとえば、「病気や怪我によって、今までの暮らしができなくなる」。教科書にも書いてある内容ですが、実際にそんな経験をした人の言葉を通して理解が深まったことがわかりました。

冬に向けての、サプライズ。

本実習には、続きがあります。5日間の冬季実習です。北海道では季節によって人々の暮らしが異なるということを理解するために、もう一度インタビュー。対象者になってくれるのは、夏と同じ人々です。今回のインタビューが終わった後、学生たちにそのことを伝えると、喜びの歓声が響きわたりました。その人に再会できることが、学びのモチベーションになってくれたらうれしいです。

また、本実習後も、2年次「地域在宅看護学」、4年次「人々の暮らしを支援する実習」など、暮らしの場を問わず、あらゆる健康状態の人々への看護を考え創り出す力を育む体系的なカリキュラムを展開。人々の暮らしや健康への理解を深め、実践力を高めていってほしいと思っています。

卒業生訪問

臨床心理士、公認心理師の資格を有し、大学院修了後は精神科クリニックの常勤カウンセラーとして研鑽を積んで、今年春に独立した安喰さん。第2子出産を控えながらもスクールカウンセラー、訪問看護へと仕事の幅を広げながら、着々と開業準備を進めています。

こころのケアサポートLink 開業

あじき
安喰 智美さん (心理科学部臨床心理学科2012年卒業
心理科学研究科臨床心理学専攻2014年修了)



独立という選択

安喰さんを訪ねたのは札幌・円山エリアにある「札幌なかまの杜クリニック」。当事者研究^{*1}やピアスタッフ^{*2}活用にも取り組む精神科・心療内科クリニックです。現在安喰さんは週に2日は同クリニック、他の日は小中学校、訪問看護ステーションに勤務し、いわばフリーランスの心理士として多方面で活躍しています。

今年3月、「やりたいことを実現しつつ事業として成立させたい」と安喰さんは独立開業を選び「こころのケアサポートLink」を立ち上げました。まだ開業準備の段階ですが、オンラインカウンセリングなどからスタートし、ゆくゆくはカウンセリングルームのオープンも考えています。「これから入る約半年の産休中に事業計画を練ってホームページを作り、SNSでの広告発信までやるつもりです」と、産休をも活用する意気込みです。

心理士が独立開業するケースはまだ多くはありません。フロンティアとして覚悟も必要でしょう。しかし「いきいきと楽しく働いて収入が得られ、開業もできる。心理士をそういう仕事にしていきたい」と話す安喰さんから感じるのは期待、希望というポジティブ要素のみです。

^{*1} 精神疾患当事者が自らの生きづらさや体験を持ち寄り、研究し、仲間と共に“自分の助け方”を見出していく取り組み。

^{*2} 当事者の視点、経験を生かし精神保健福祉分野で働く精神疾患当事者。

モンスターの倒し方を伝授

「幼少期、思春期に安心できる大人と出会い、胸の内を聞いてもらえる経験の有無が、その後の人生に大きく関わると思います」。クリニックで成人のクライアントに多く接してきた経験から早期介入の重要性を実感してきた安喰さんは、スクールカウンセラーの仕事に魅力と手応えを感じています。不登校になりかけた生徒が学校にとどまられたケースもあります。「こ

れならでる」「これはやりたい」という生徒の気持ちが保てるよう別室登校を取り入れた支援方法を保護者、担任と一緒に考え組み立てた結果でした。

夏休み前には中学1年生180人ほどを対象に「こころの健康教室」を実施し、中1の不登校原因のトップ「友だちができない問題」と「夏休みに潜むモンスター（宿題やりたくない、休み明け学校に行きたくない）の倒し方」、さらに「ストレスマネジメント」を取り上げました。アンケートでは99%の生徒が「内容を理解できた」と回答。「知ることができてよかった」「自分のストレスに気づける、対処できる」という声が多く寄せられました。その後「誰にも話せなかったけど、聞いてもらえるんですね」と相談室を訪ねた生徒も。「こんなに必要とされている!」。誰より安喰さん自身がスクールカウンセラーの重要性を実感する体験でした。

社会に向かい、ひらいていく

「こころのケアサポートLinkは児童・生徒、女性が気軽に心理士とつながれる場をめざします。『自治体の相談窓口は混雑してつながりにくい』と聞きます。ニーズがあるなら、それに答えなければと思います」と安喰さん。謎めいた



大学の授業で自分をまるごと受け入れるプロセスを実体験した安喰さん。「相手を知るにはまず自分を知ることが必要。自分の価値観を熟知しているから、意識的にそれを脇において、クライアントの世界観を否定することなく話を聴けるのです」。

存在から具体的な仕事が見える存在へ「心理士の仕事を外へひらいていくのも役割だと思います」とも言います。独立開業には自己実現の側面より、使命感のほうが大きいようです。心理士を「身ひとつの仕事」と表現したことも印象的でした。「何も持たず、この身だけで傾聴する。心理士としてできることは自分を磨くこと、自己研鑽し続けることだけです」。

我が国初の心理職の国家資格・公認心理師誕生から5年。まだその専門性を社会が十分に活用しているとはいえませんが、安喰さんのような存在が、心理士が身近にいる、誰もが生きやすい社会づくりを牽引していくのでしょう。



クリニックではデイケア利用者さん対象の講習も。写真は認知行動療法を噛み砕いて説明し、日常生活への取り入れ方を伝えた時のもの。(2017年8月)

チュラロンコン大学(タイ)からの短期留学生を受け入れました。

チュラロンコン大学は、1917年に設立されたタイで最も古い歴史をもつ国立大学です。同校とは、2018年に歯学部との学部間協定を締結し、2020年には同校Allied Health Sciences学部と本学のリハビリテーション科学部との間でも学部間協定を締結。COVID-19の影響で交流ができない状況でしたが、6月27日～29日の3日間、初めてAllied Health Sciences学部からの短期留学生3名を受け入れました。本学リハビリテーション科学部、地域包括ケアセンター及び大学病院等で研修を行い、最終日には本学学生との交流会も開催。短期間



でしたが、充実したプログラムとなりました。来年3月には本学リハビリテーション科学部と歯学部の学生の派遣が予定されており、同校との交流が益々活発になることが期待されます。

モンゴル国立医科大学と大学間交流協定を締結しました。

創立80年を超える医療系総合大学であるモンゴル国立医科大学と本学との大学間協定を締結しました。同校は世界100を超える大学や研究所と連携協定を交わしており、グローバル化のもと目覚ましい発展を遂げてきています。6月15日の調印式では、浅香正博学長とKhurelbaatar Nyamdavaa学長による協定書への署名が、同大学の副学長4名、国際交流担当ディレクター等の立ち会いのもと行われました。調印式の後は、看護学部長(リハビリ部門を含む)、薬学部長、歯学部長とそれぞれ



面談し、今後の交流について具体的な協議と各学部施設の見学を行いました。同校とは2017年に歯学部間にて学部間協定を結んでおりますが、今回の大学間協定締結により、今後は看護福祉学部、薬学部、リハビリテーション科学部等での交流も期待されます。

口腔ケアアンバサダー認定資格試験で薬学部生34名全員が合格しました。

3月8日に本学薬学部の学生(希望者)を対象に、口腔ケアアンバサダーの認定資格試験が行われました。本学薬学部の1～5年生までの受験者34名全員が合格し、6月8日に認定証の配布式が行われました。この試験は、日本口腔ケア学会 薬剤師部会の評議員を務める教員が在籍している大学の薬学部生が対象です。合格すると口腔ケアアンバサダーの認定資格を取得できるほか、日本口腔ケア学会の会費無料の準会員として登録ができ、就職等の履歴書にも記載できます。薬剤師が口腔ケア?と思われるかもしれませんが、超高齢社会になり、在宅医療などの場では口腔ケアがとても重要。薬剤師でも口腔ケアの知識が求められる時代となり、将来役に立つ資格といえます。今後も試験の実施を予定していますので、多くの薬学生を受験に期待しています。

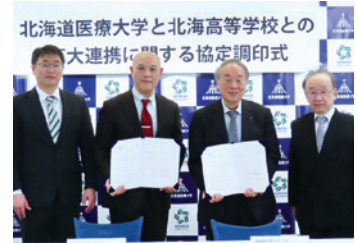


北海高等学校との高大連携に関する協定が締結されました。

3月27日、北海高等学校(札幌市豊平区)と本学は高大連携に関する協定を締結しました。本学が高等学校と連携協定を締結するのは13校目となります。同校と本学の間の連携は、相互間の信頼関係を構築すること、新たな高大連携活動を通じて、大学生・高校生のより良い進路選択やキャリア構築の支援、教育・研究に関する相互理解の促進に取り組むこと、そして、大学教育や高校教育の発展に寄与することを目的としています。

北海高等学校との連携内容

- 1 大学と高等学校の教育活動(授業等)に対する支援
- 2 大学と高等学校との共同研究の実施
- 3 大学と高等学校との連携に関わる既存施設・設備の利用
- 4 その他、必要とする連携



EDITOR'S NOTE

新型コロナウイルス感染症の扱いが2023年5月から5類感染症相当へと変更になりました。北海道医療大学における学生・教職員の生活もコロナ禍前のものへと戻つつあります。そのことを強く実感するのは大学内で見かける人と人との物理的な距離です。一廊下を談笑しながら歩く学生たち、パーティションのないテーブルでディスカッションする学生と教員。明らかにコミュニケーションを図る距離が短くなりました。

オープンキャンパスについても接触制限のないプログラムが展開されるようになっており、参加していただいた高校生や保護者からの評判も上々のようです。プログラムの内容そのものの良さはもちろん、文字通り密接に関わることできた教職員や在学生の人柄や雰囲気を通じて北海道医療大学の魅力が参加者にしっかり伝わっているのだと感じています。

この広報誌はコロナ禍以前より「大学ではこのようなことを行っています」、「在学生はこんなすごいことを成し遂げました」、「教職員はこんな活動を行いました」という情報を大学内外に発信する役割を果たしています。今後もこの役割に変わりはありません。おそらく、この広報誌を読まれている方の中には大学からソーシャルディスタンス以上に距離が離れた方も多くいらっしゃることでしょ。そんな方々にもこの広報誌を通じて北海道医療大学の存在を、より近くに感じていただければ幸いです。

今後も北海道医療大学の教職員や在学生の情報や活動について、引き続き全力で発信してまいります。皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。(Y.O記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.181

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 志茂 剛 飯嶋 雅弘
内ヶ島 伸也 奥田 かつり 鈴木 和 青藤 恵一
福田 実奈 大須田 祐亮 山田 桃子 葛西 聡子
近藤 啓 高橋 祐輔 秋元 奈美 三川 清輝
小林 昭博 土橋 幸

発行日 ● 2023年10月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

TEL: 0133-22-2113

http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail: nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。